

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ドンナイ省、ラムドン省でインクルージョン教育研修システムが構築され、他省のモデルとなっている。ドンナイ省、ラムドン省の障害ある児童の就学率が増加する。
(2) 事業内容	❶ キーティーチャー育成研修（事業1）までの活動 2014年3月1日から2014年6月23日（キーティーチャー研修）までの活動 1. ベトナム当局との手続き ① ベトナム外務省 PACCOM に NGO 登録手続き ② ドンナイ省、ラムドン省の教育局と連携をとり、各省の人民委員会に対して事業の実施許可証取得手続き ③ ベトナムで US\$口座を開設するために、PACCOM から仮の NGO 登録書の発行を受ける手続き ④ 在ホーチミン日本国総領事館からの入金後、日本での支出相当額を日本に海外送金するために必要書類を ANZ に提出。日本へ送金。 ⑤ ドンナイ省で、6月23日から7月18日まで研修を実施するための人民委員会からの許可証取得手続き ⑥ ドンナイ省で、2名の日本人が研修講師を務める事に対する、ドンナイ省人民委員会への許可証取得手続き ⑦ ドンナイ省で、1名の日本人担当者が活動する事に対する、ドンナイ省人民委員会への許可証取得手続き 2. キーティーチャー育成研修の準備 ① 各教育局が30名のキーティーチャーを選抜。 ② 研修場所の選定。 ③ 研修日程の決定。（今回は、ドンナイ省、ラムドン省、2名の日本人の専門家の3者の都合を考慮して決めるという理由と、1年目の研修ということもあり、調整にかなり時間がかかった。） ④ 研修の予算書を各教育局に送り、各教育局の要望とすり合わせ。 ⑤ 日本人の専門家の来越日程の決定。アジア・レインボーと日本人専門家が直接相談したり、メール交換して、研修内容を検討決定。 ⑥ ベトナム人講師の選定。ベトナム人講師の講義内容を決定。 ⑦ 各講師の講義内容に合わせて、研修の教材を準備。 ⑧ 研修テキストを参加者分作成。

- ⑨ 日本人専門家の講義内容を2名のベトナム人専門家が翻訳（パワーポイント300枚）。
- ⑩ 日本人専門家、ベトナム人専門家の宿泊施設の手配。
- ⑪ 日本人専門家の航空券、海外旅行保険の手配。

② 事業1. キーティーチャー育成研修詳細

研修実施期間：6月23日（月）～7月18日（金）

研修実施場所：Nguyen an Ninh 小学校、住所：1 Truong Dinh, Tan Mai ward, Bien Hoa city、ドンナイ省

実施内容1： ラムドン省のキーティーチャーに対する中級障害児教育研修
 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人3名を含む）が、ラムドン省の30名のキーティーチャーに対して、中級障害児教育2週間研修を実施した。

知的障害児教育研修 15名 ＜6月23日（月）～7月4日（金）＞

聴覚障害児教育研修 15名 ＜7月7日（月）～7月18日（金）＞

研修例

講師名：Vu Thi Kim Hoa

6月24日（火）、6月25日（水） ラムドン省知的障害児教育研修

研修項目：知的に障害ある児童の普通小学校へのインクルージョン教育

<現在の問題：研修参加者から>

普通小学校のインクルージョンクラスの現在の問題

- ① 小学校の教師の大半が障害ある児童を受け入れたくない傾向にある。どうしても受け入れる必要がある場合は受け入れるが、IEP（個別教育計画書）は作成していない。
- ② 教師が障害ある児童を受け入れない理由：クラス全体の成績に影響、他の子どもへの心理的な影響、専門の知識が無いなどで、教師の不安が大きいため。

<現在の問題への対応：講師から>

1. 校内の障害児教育専門家の養成

- ① 障害児教育に興味ある教師を地区研修又は省内研修へ派遣する。

	② 校内で障害ある児童に対し差別などがないように、学校全体に助け合い精神を普及させる。 2. 校内のインフラ確立 ① 障害ある児童が利用できる学習コーナーを作る。 ② 必要な教具を整備する。教科に使う教具はできる限り簡単で作りやすく、または購入しやすい物で障害の有無で差別がないように心がける。 ③ 校内の廊下、トレイ、机、椅子は障害ある児童の特徴に合わせて設備を調整する。 3. 障害ある児童がコミュニケーション能力を取得できるようにする方法 ① 話す時に、子どもの目を見る。 ② よく観察した上、本当に困った時に助ける。 ③ スキンシップをする。 ④ クラスの規則に違反する際、きちんと罰する。同時に親にも説明する。 ⑤ 問題行動がある場合、子どもをクラス外に行かせる。または、子どもの興奮を静めてから、行動調整を行う。 ⑥ クラスの全活動の参加機会を作る。 ⑦ 和やかなクラス環境を作るため、簡単な玩具をクラスに持って来てもらい、クラスメートと一緒に遊ぶ。 4. 障害ある児童のプロファイル管理 ① 病院が発行した障害認定証明書 ② 知能テスト結果表（IQ）及び心理テスト結果表 ③ 出生届 ④ 早期介入・教育 5. 教師が理解すべき20個の文章（ディスカッション） 6. 実習 ケーススタディー：算数や国語の授業の IEP（個別教育計画書）を作成する。 ケース1：男子、生活年齢7歳、発達年齢5歳、学期の終わり。 ケース2：女子、生活年齢9歳、発達年齢7歳、学期の半ば。 7. IEP（個別教育計画書）の理解及び実習 ケーススタディー：知的障害、生活年齢9歳、言語障害があり、多動性、集中力が乏しい、体力がある、視力が弱い。 全員を4つのグループに分け、一緒に計画を作ってから全員の前で発表する。 <u>ラムドン省中級障害児教育研修参加者の意見：</u> 研修を受けた30名のキーティーチャー全員に研修終了後インタビューを実施したところ、ほとんどのキーティーチャーから、「研修前、普通小学校で障害ある児童
--	--

がどのように学習するのかわからなかったので不安であった。研修を受ける中で、障害ある児童に対しては、その児童の障害や発達心理を理解し、学習ニーズを把握し、ニーズに基づいた IEP（個別教育計画書）を作成し、その計画書に沿って学習を提供する事や、授業中に大声を出す、授業中に教室を走り回るなどの問題行動に対して適切な対応をする事など、インクルージョン教育というのは、「一人一人違って子どもを一人残らず包み込む（include）教育システムを構築する。また、一人一人のニーズに応じた教育を展開する。」という事がよく理解できた。各地区に戻ってから、障害ある児童を受け入れている教師対象の地区内研修を実施したい。」という意見が聞かれた。また、研修で学んだ内容をもっと勉強したいという積極的な意見もあった。

実施内容 2： ドンナイ省のキーティーチャーに対する上級障害児教育研修

当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人 3 名を含む）が、ドンナイ省の 31 名のキーティーチャーに対して、上級障害児教育 2 週間研修を実施した。

※ドンナイ省は先行事業でキーティーチャーに対してすでに 3 年間、中級障害児教育研修を実施しており、インクルージョン教育研修システム構築が進んでいる。ベトナムにおけるインクルージョン教育を牽引するレベルにするため、上級研修を実施した。（ラムドン省とは別内容）

知的障害児教育研修 16 名 < 6 月 25 日（水）～ 7 月 8 日（火）>

聴覚障害児教育研修 15 名 < 6 月 25 日（水）～ 7 月 8 日（火）>

研修例

講師名：清水直治 7 月 2 日（水） ドンナイ省知的障害児教育研修

研修項目：IEP（個別教育計画書）

（1）「IEP（個別教育計画書）」：一人一人の教育ニーズに合った教育の実施

①子どもの実態を把握 ②目標を設定 ③支援内容を具体的に考えた指導 ④評価

（2）ポイント：①指導のねらいが明確、内容が具体的 ②子どもの情報を関係者が共有③活用できる計画（共通理解、就学、進学、引継ぎ）

（3）「IEP（個別教育計画書）」の作成手順：①生徒の実態把握 ②目標の設定（短期、長期）③具体的な支援、指導方法の検討 ④支援・指導の実施 ⑤評価と見直し ⑥次の支援・指導へ活かす

講師名：西永堅 7 月 4 日（金） ドンナイ省知的障害児教育研修

	研修項目：個別の教育支援計画から個別の指導計画 先生が何を教えるかの視点だと、子どもの変化の視点が無視される。だから IEP（個別教育計画書）が必要。障害があるからだめなんだというのは、先生の知識でものを見ているから。同じものを見ても人それぞれ感じ方が違う。 インクルージョン教育は、単に障害のある子とない子が同じ授業を受けるというのとは違う。先生が何を教えるかではなく、子どもたちが何を学ぶかが大切。目に見える身長が違うのと同様に、目に見えない脳の発達が違うのはあたりまえ。同じものを見ても、人それぞれ感じ方は違う。人が学習するスピードは異なる。気づくか気づかないか。気づかせる教育、気づかせる支援（本人主体）。教え込んでも仕方がない。個人差があるのにカリキュラムは年齢で決めている。 J リーガーやプロ野球選手には4月、5月が圧倒的に多い。LD や ADHD の子どもには、2月、3月が多い。4月、5月生まれの子は、褒められて育った。2月、3月の子どもは、遅いと言われて育った。褒める教育が重要。大人は、子どもたちのできない事を見がちであるが、できることを見ることのほうが、発達の多くのヒントがある。 <u>ドンナイ省上級障害児教育研修参加者の意見</u>： ドンナイ省のキーティーチャーは、先行事業からすでに毎年各地区で研修を実施しているが、IEP（個別教育計画書）やアセスメントが難しいという意見や、問題が医療や福祉にまで及び対応できないという意見が多かった。日本人の専門家もキーティーチャーの悩みに真摯に応じた成果もあり、研修後キーティーチャーからは、「今回の研修で、自身のキーティーチャーとしてのスキルを高めるという目的と、地区内研修の充実という方向性の確信をもてた。」という意見が聞かれた。また、すでに各地区がインクルージョン教育に取り組んでいることもあり、研修中は、各地区の特色（強み、弱み）を紹介する時間も設け、各地区がお互いに学びあう環境も構築されつつある。
（３）達成された効果	<u>研修後の各省、各地区のインクルージョン教育研修システム構築に向けた動向</u> １．ラムドン省教育局の研修後の計画 ① 教育局は、１０月中旬に３０名のキーティーチャーをダラット市に呼び、会議を行う。（ベトナムの小学校は、６月、７月、８月が夏休みで、９月が新学期であるため非常に忙しい。１０月には少し余裕ができるので、１０月に会議を実施する。） ② 会議で、３０名のキーティーチャーに２週間研修の成果を報告してもらう。 ③ 会議で、３０名のキーティーチャーから各地区の研修計画表を提出してもらう。（ラムドン省では、教育局の指示のもとに各地区が研修を実施するので、この

教育局での会議により、全 12 地区は必ず地区研修を実施する。)

2. ドンナイ省 11 地区の研修後の取り組み

- ① Bien Hoa 市 : 9 月中旬に地区内全小学校 53 校の管理者と教員に対して研修を実施する。内容は、インクルージョン教育の概念、理念、政策、個別教育計画書の作成方法、学習記録方法などである。11 月に地区内で聴覚障害児を受け入れている教員を対象とした研修を実施する。内容は、聴覚障害の特徴、手話である。
- ② Dinh Quang 地区 : 11 月に地区内の教員と校長、副校長 50 名を対象とした地区研修を実施する。
- ③ Long Thanh 地区 : 8 月に 地区内の教員と校長、副校長 400 名を対象とした研修を実施した。内容は、個別教育計画書、各障害の理解、教育方法、教育プロジェクトについてである。
- ④ Xuan Loc 地区 : 8 月に地区内の教員 200 名を対象として研修を実施した。内容は、アセスメントと児童の問題行動に対応するための方法である。
- ⑤ Tan Phu 地区 : 8 月に地区内 23 校の教員全員を対象として研修を実施した。内容は、各障害の理解、個別教育計画書の作成方法、インクルージョン教育の合理的管理方法である。
- ⑥ Thong Nhat 地区 : 8 月に地区内の障害ある児童を受け入れているすべての教員に対して、知的障害児教育研修（内容：障害の特徴、ニーズの理解、問題行動への対応、アセスメント、個別教育計画書の作成方法）、聴覚障害児教育研修（内容：聴覚障害者の世界、インクルージョン教育、手話）を実施した。
- ⑦ Vinh Cuu 地区 : 地区内の各小学校ではインクルージョン教育の研修を実施した。内容は、各障害の特徴、障害のある児童のための教え方、問題行動の対応方法と生活スキルの教え方などである。地区研修に関しては、実施に向けて現在計画中である。
- ⑧ Trang Bom 地区 : 10 月から 11 月にかけて、地区で研修を実施する計画である。内容は、インクルージョン教育、アセスメント、IEP（個別教育計画書）、障害ある児童への教え方、政府機関や企業との連携についてである。
- ⑨ Long Khanh 地区 : 8 月 10 日に地区内研修を実施した。参加者は教員と管理者の 100 名である。内容は、問題行動の対応、学校の環境作り、合理的な調整のために管理者と教員がすべきこと、個別教育計画書の作成方法、解りやすい教え方と、優しい学校環境についてなどである。
- ⑩ Cam My 地区 : 9 月 30 日、90 名の教員対象研修、27 名の管理者対象研修を計画している。内容は、問題行動の対応の方法、インクルージョン教育の

	クラス作り、障害ある児童の両親と学校との連携作りなどである。 11 月は地区の模範校への見学会を企画している（参加者は各小学校の担当者）。 ⑪ Nhon Trach 地区：研修に参加したキーティーチャーの所属する小学校での研修は実施した。内容は、障害ある児童への教え方、問題行動に対する対応などである。
(4) 今後の見通し	1. 10 月に、上記の各地区が地区の予算で実施する研修の他に、当事業の予算で実施する各省 200 名対象の 3 日間、3 回研修が実施される。この研修に参加した教師が研修後自身の小学校で研修を実施する。 2. 12 月に、各省全地区対象にモニタリングを実施する。モニタリングでは、事業担当者の馬場が、小学校の校長、副校長、教師、障害ある児童、障害ある児童の両親総勢各省 300 名にインタビューして、各省のインクルージョン教育のシステムの構築状況を把握する。また、同時に訪問した小学校では、アジア・レインボーの専門家ビン氏、ハー氏が障害ある児童の両親と、担任の教師に対するカウンセリングを実施する。